

## 諏訪 梓 氏 学位審査結果の要旨

主査：日下 博文

副査：中村 加枝、浅井 昭雄

認知症で最も多いのはアルツハイマー病であるが、家族性アルツハイマー病でアポリポ蛋白 E 遺伝子の三つの多型のうち  $\epsilon 4$  の頻度が高いことが見出され、さらに孤発性アルツハイマー病でも  $\epsilon 4$  が最大の危険因子であることが知られている。本研究では、神経心理学検査と脳血流量を介した脳機能画像を 1 年という長期に渡って解析し、臨床症状と画像を対比検討したところが方法論的に斬新である。そして、 $\epsilon 4$  の存在により、脳血流量は低下するが、神経心理学検査には有意差がないことを明らかにした。 $\epsilon 4$  がそれぞれの検査に及ぼす経時的影響を、より具体的に明らかにしたことが学位に値する。